

まいづる
元氣人

地域で頑張る姿を子ども達へ

舞鶴自治連・区長連協議会会長 倉橋 貢みつぐさん

長年の自治会活動の推進に尽力された功績が評価されて、総務大臣表彰を受けられた倉橋さん。舞鶴自治連・区長連協議会をはじめ、舞鶴市民生委員推薦会、まいづる人権啓発市民会議の会長職など、数多くの役職に就いておられます。自治会に対する思いなどについてお話を伺いました。

さまざまな活動に携わって

舞鶴で生まれて、育ち、働き、平成元年に大宮自治会長となったことをきっかけに、舞鶴自治連・区長連協議会の会長として13年間、舞鶴市全体の自治会活動の推進のために頑張っている倉橋さん。地域のために活動する団体での役職の数は継続しているもので18もあり、経験した役職の数は自分でもすぐに分からないほど。「周りの人からよく大変でしょうと言われるが、言われるほど大変には感じていません。おそらくこのように社会に貢献できる仕事が自分に向いているという気がしますし、きつと好きなんでしょう(笑)」と話す倉橋さんは、これまで、いろいろな役を頼まれても、ほとんど断らずに引き受けてきたそうです。

子どもの頃に出会った野球が人生のベースにあり、舞鶴野球連盟の会長としても14年間、後進の育成に努め続けている。「野球はプレーヤーとしても、監督目線で観戦しても面白いスポーツ」と楽しそうに

話す。さらにお孫さんの話になると、笑顔がこぼれる優しいおじいちゃんの顔となる。「映画音楽(エデンの東、慕情など)の鑑賞という趣味も持ち、忙しい中でも充実した毎日を過す。

地域を好きになること

「人口が減少していく中で、何もかもを『公助』に頼ることが困難になってくる時代になるのではと思っています」。住民が自らの力で地域を支えることができます重要となり、自治会はライフラインの一つとしての役割をも担うようになる。そのためには将来の活動の担い手を育てていくことが不可欠だと考えている。そこで鍵となるのは「自分の住んでいる地域を好きになること」だと力説する。そのための方法として「小学生の時期だけでなく、中学、高校と継続して地域と関わりを持ち続け、地域で頑張る大人の背中を見て育つてほしいと思います。そして社会人になったら、今度は自分が地域で頑張る姿を子ども達に見せる番です。そこから子

ども達は何かを学びます。それが「地域を好きになること」につながると思っています」と教えてくれた。

これからの自治会

これからの活動についても「今後は、今ある問題だけでなく、それぞれの地域で将来必要となるテーマについて先取りして話し合い、行動していくことが大切になってくるのではないのでしょうか。そのために、これからも微力を尽くしたい」と力強い言葉で語ってくれた。



▲子どもへの優勝杯を、明るく大きな声で贈呈することになっている倉橋さん



まいづる

花図鑑



vol. 124

本州中部以南の暖地の林内に生える常緑低木。観賞用として庭などに植えられ、高さ約0.5〜1メートル。葉は対生し、長さ約1.5センチの長楕円形で先は尖り、縁には鋸歯がある。

夏、枝先に花弁のない黄緑色の小さな花をつけ、冬に径約5〜7ミリの朱赤色の実をつけ良く目立ち、正月用の花材として使われる。

名前の由来は、マンリヨウ(万両、ヤブ(ユウジ科)に対し千両の意。マンリヨウの実が下向きにつくのに対しセンリヨウは上向きにつく。

【協力】瓜生勝朗

市文化財保護委員(植物分野)



センリヨウ (センリョウ科)

見ごろ 12~3月頃

